

令和３年度 高知県・高知市 知事・市長及び教育長連携会議

高知市教育委員会

説明資料

資料１ 学力向上の取組の成果と課題，今後の取組について

資料２ 不登校対策について

資料３ 保幼小連携・接続の取組について

令和 3 年度

全国学力・学習状況調査結果の概要

1	令和 3 年度全国学力・学習状況調査の結果について	1
2	令和 3 年度全国学力・学習状況調査の結果 H19～R 3 における高知市平均と全国平均との差の推移	2
3	小学校第 6 学年における教科別調査結果の比較	3
4	中学校第 3 学年における教科別調査結果の比較	4
5	各教科における高知市の学力の状況（小学校第 6 学年）	5
6	各教科における高知市の学力の状況（中学校第 3 学年）	6
○	問題別調査結果	7
○	全国学力・学習状況調査の結果 ～高知市と高知市外との差～	11
○	学力向上アクティブプラン第Ⅱ期	12
○	学力向上の取組の成果と課題、今後の取組について	13

令和 3 年 10 月 14 日
高知市教育委員会

1 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

調査の概要

(1) 調査の目的

- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 実施日 令和3年5月27日（木）

(3) 調査内容

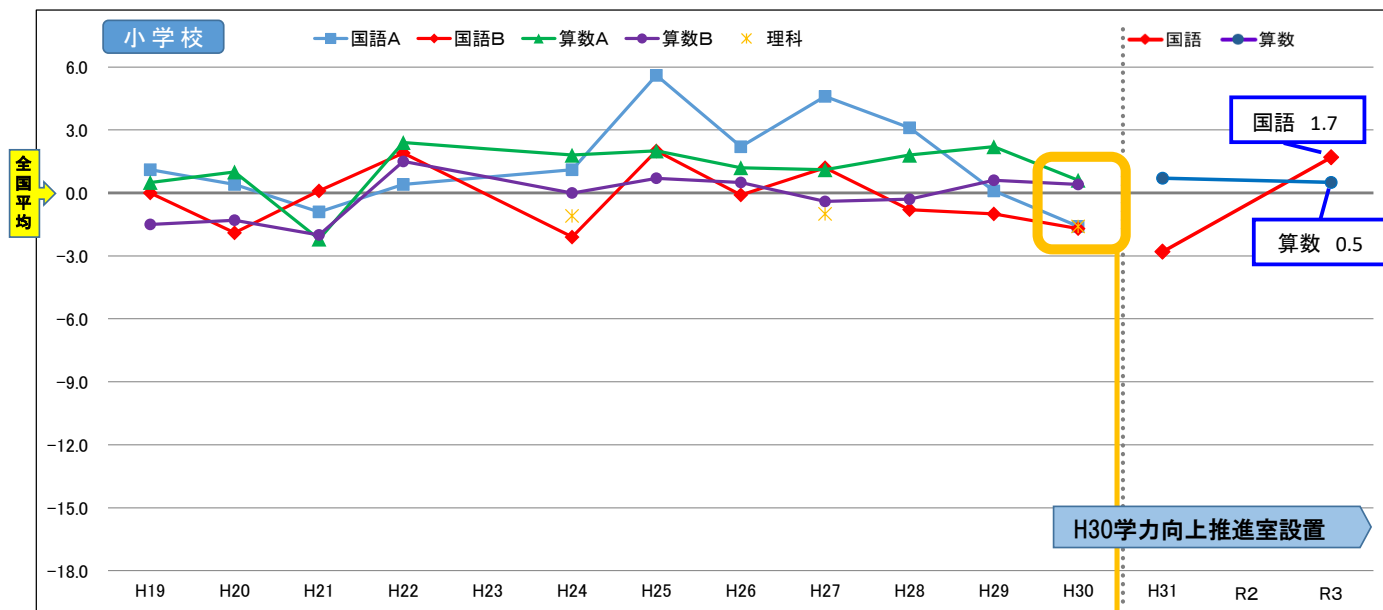
- ◇ 小学校第6学年（義務教育学校前期課程を含む）、中学校第3学年（義務教育学校後期課程）の全児童生徒を対象
- ◇ 教科に関する調査は、国語、算数・数学を出題
 - ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- ◇ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査を実施

(4) 高知市立学校の参加状況

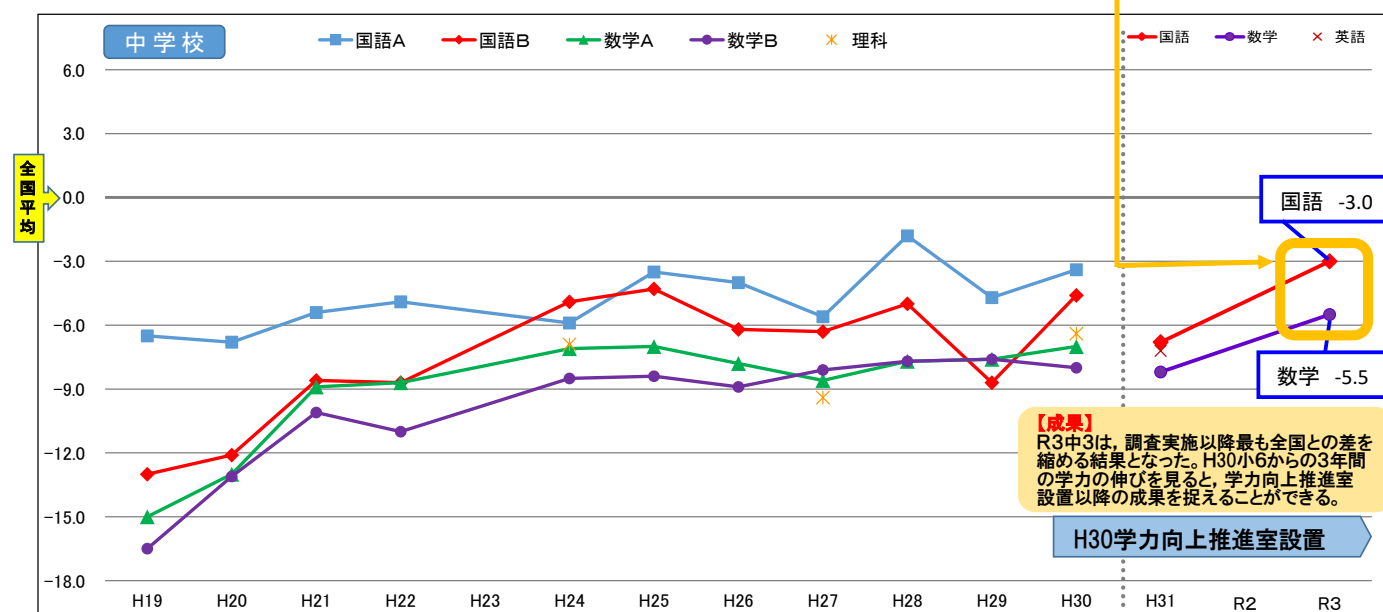
- ◇ 参加学校数
 - 小・義務教育学校 41 校
 - 中・義務教育学校 19 校
 - 小・中・義務教育学校合計学校数 58 校
- ◇ 小学校解答（回答）児童数
 - 国語 2,403 名
 - 算数 2,403 名
 - 児童質問紙 2,404 名
- ◇ 中学校解答（回答）生徒数
 - 国語 1,734 名
 - 数学 1,736 名
 - 生徒質問紙 1,741 名

2 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果 H19～R3における高知市平均と全国平均との差の推移

- ・小学校においては、国語、算数ともに全国平均を上回っている。特に国語においては、改善が見られ本年度は1.7ポイント上回っている。
- ・中学校においては、国語、数学ともに全国平均を下回っているものの、調査開始以降全国平均との差を縮めることができています。



	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
国語	A	1.1	0.4	-0.9	0.4		1.1	5.6	2.2	4.6	3.1	0.1	-1.6	-2.8	1.7
	B	0.0	-1.9	0.1	1.9		-2.1	2.0	-0.1	1.2	-0.8	-1.0	-1.7		
算数	A	0.5	1.0	-2.2	2.4		1.8	2.0	1.2	1.1	1.8	2.2	0.6	0.7	0.5
	B	-1.5	-1.3	-2.0	1.5		0.0	0.7	0.5	-0.4	-0.3	0.6	0.4		
理科						-1.1			-1.0			-1.6			



	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
国語	A	-6.5	-6.8	-5.4	-4.9		-5.9	-3.5	-4.0	-5.6	-1.8	-4.7	-3.4	-6.8	-3.0
	B	-13.0	-12.1	-8.6	-8.7		-4.9	-4.3	-6.2	-6.3	-5.0	-8.7	-4.6		
数学	A	-15.0	-13.0	-8.9	-8.7		-7.1	-7.0	-7.8	-8.6	-7.7	-7.6	-7.0	-8.2	-5.5
	B	-16.5	-13.1	-10.1	-11.0		-8.5	-8.4	-8.9	-8.1	-7.7	-7.6	-8.0		
理科						-6.9			-9.4			-6.4			
英語													-7.2		

3 小学校第6学年における教科別調査結果の比較

【令和3年度の学力の状況】

- ・国語の平均正答率における高知市と全国との差は +1.7ポイントであり、H31年度の -2.8ポイントから 4.5ポイント改善することができた。
- ・算数の平均正答率における高知市と全国との差は +0.5ポイントであり、H31年度同様全国レベルを維持することができた。

小学校(国語・算数)									
		国語平均正答率(%)			高知市と 全国との差	算数平均正答率(%)			高知市と 全国との差
		高知市(公立)	高知県(公立)	全国(公立)		高知市(公立)	高知県(公立)	全国(公立)	
(A・B)	令和3年度	66.4	66.9	64.7	1.7	70.7	70.8	70.2	0.5
	平成31年度	61.0	64.0	63.8	-2.8	67.3	68.3	66.6	0.7

		国語平均正答率(%)			高知市と 全国との差	算数平均正答率(%)			高知市と 全国との差
		高知市(公立)	高知県(公立)	全国(公立)		高知市(公立)	高知県(公立)	全国(公立)	
A 問題 (知識)	平成30年度	69.1	70.0	70.7	-1.6	64.1	64.8	63.5	0.6
	平成29年度	74.9	74.9	74.8	0.1	80.8	81.6	78.6	2.2
	平成28年度	76.0	77.2	72.9	3.1	79.4	80.4	77.6	1.8
	平成27年度	74.6	73.4	70.0	4.6	76.3	77.0	75.2	1.1
	平成26年度	75.1	74.4	72.9	2.2	79.3	79.2	78.1	1.2
	平成25年度	68.3	65.3	62.7	5.6	79.2	78.8	77.2	2.0
	平成24年度	82.7	82.1 (81.5~82.7)	81.6 (81.4~81.7)	1.1	75.1	74.7 (73.9~75.6)	73.3 (73.1~73.5)	1.8
	平成23年度	81.4	81.0	83.3 (83.2~83.5)	0.4	82.4	82.3	74.2 (74.0~74.4)	2.4
	平成22年度	83.7	82.8 (82.2~83.5)			76.6	75.3 (74.3~76.3)		
	平成21年度	69.0	68.5	69.9	-0.9	76.5	76.4	78.7	-2.2
	平成20年度	65.8	65.0	65.4	0.4	73.2	72.6	72.2	1.0
	平成19年度	82.8	81.7	81.7	1.1	82.6	81.6	82.1	0.5
B 問題 (活用)	平成30年度	53.0	54.9	54.7	-1.7	51.9	52.7	51.5	0.4
	平成29年度	56.5	56.8	57.5	-1.0	46.5	46.2	45.9	0.6
	平成28年度	57.0	57.7	57.8	-0.8	46.9	47.3	47.2	-0.3
	平成27年度	66.6	67.0	65.4	1.2	44.6	44.6	45.0	-0.4
	平成26年度	55.4	55.0	55.5	-0.1	58.7	57.9	58.2	0.5
	平成25年度	51.4	49.8	49.4	2.0	59.1	57.9	58.4	0.7
	平成24年度	53.5	53.4 (52.4~54.3)	55.6 (55.4~55.8)	-2.1	58.9	58.1 (57.1~59.1)	58.9 (58.7~59.1)	0.0
	平成23年度	46.6	44.3	77.8 (77.7~78.0)	1.9	47.4	46.2	49.3 (49.1~49.5)	1.5
	平成22年度	79.7	78.1 (77.2~79.0)			50.8	48.2 (47.2~49.2)		
	平成21年度	50.6	49.5	50.5	0.1	52.8	52.1	54.8	-2.0
	平成20年度	48.6	47.7	50.5	-1.9	50.3	49.3	51.6	-1.3
	平成19年度	62.0	60.0	62.0	0.0	62.1	60.7	63.6	-1.5

小学校(理科)				
	小学校平均正答率(%)			高知市と 全国との差
	高知市(公立)	高知県(公立)	全国(公立)	
平成30年度	58.7	59.9	60.3	-1.6
平成27年度	59.8	60.3	60.8	-1.0
平成24年度	59.8	59.6 (58.8~60.4)	60.9 (60.8~61.1)	-1.1

※平成22・24年度は抽出調査のため、平均正答率の推計値で示している。

()の数値は平均正答率の95%信頼区間を示している。

※平成23年度は全国学力・学習状況調査問題を活用した希望利用調査の結果を示している。

4 中学校第3学年における教科別調査結果の比較

【令和3年度の学力の状況】

- ・国語の平均正答率における高知市と全国との差は -3.0ポイントであり、平成31年度の -6.8ポイントから 3.8ポイント改善することができた。
- ・数学の平均正答率における高知市と全国との差は -5.5ポイントであり、平成31年度の -8.2ポイントから 2.7ポイント改善することができた。

中学校(国語・数学)		国語平均正答率(%)			高知市と 全国との差	数学平均正答率(%)			高知市と 全国との差
		高知市(公立)	高知県(公立)	全国(公立)		高知市(公立)	高知県(公立)	全国(公立)	
(A・B)	令和3年度	61.6	63.5	64.6	-3.0	51.7	54.6	57.2	-5.5
	平成31年度	66.0	70.8	72.8	-6.8	51.6	58.1	59.8	-8.2

		国語平均正答率(%)			高知市と 全国との差	数学平均正答率(%)			高知市と 全国との差
		高知市(公立)	高知県(公立)	全国(公立)		高知市(公立)	高知県(公立)	全国(公立)	
A 問題 (知識)	平成30年度	72.7	75.3	76.1	-3.4	59.1	64.1	66.1	-7.0
	平成29年度	72.7	75.8	77.4	-4.7	57.0	61.9	64.6	-7.6
	平成28年度	73.8	75.4	75.6	-1.8	54.5	58.5	62.2	-7.7
	平成27年度	70.2	73.3	75.8	-5.6	55.8	59.9	64.4	-8.6
	平成26年度	75.4	77.2	79.4	-4.0	59.6	62.7	67.4	-7.8
	平成25年度	72.9	74.3	76.4	-3.5	56.7	59.3	63.7	-7.0
	平成24年度	69.2	72.5 (71.8~73.1)	75.1 (75.0~75.2)	-5.9	55.0	58.3 (57.4~59.2)	62.1 (62.0~62.3)	-7.1
	平成23年度	76.9	78.5			52.8	54.3		
	平成22年度	70.2	72.6 (72.0~73.3)	75.1 (75.0~75.2)	-4.9	55.9	59.5 (58.3~60.7)	64.6 (64.4~64.8)	-8.7
	平成21年度	71.6	74.2	77.0	-5.4	53.8	56.5	62.7	-8.9
	平成20年度	66.8	70.0	73.6	-6.8	50.1	54.5	63.1	-13.0
	平成19年度	75.1	78.1	81.6	-6.5	56.9	62.8	71.9	-15.0
B 問題 (活用)	平成30年度	56.6	59.7	61.2	-4.6	38.9	43.2	46.9	-8.0
	平成29年度	63.5	68.9	72.2	-8.7	40.5	44.7	48.1	-7.6
	平成28年度	61.5	65.2	66.5	-5.0	36.4	40.1	44.1	-7.7
	平成27年度	59.5	62.9	65.8	-6.3	33.5	36.2	41.6	-8.1
	平成26年度	44.8	47.7	51.0	-6.2	50.9	53.6	59.8	-8.9
	平成25年度	63.1	64.8	67.4	-4.3	33.1	35.4	41.5	-8.4
	平成24年度	58.4	61.6 (60.9~62.3)	63.3 (63.2~63.4)	-4.9	40.8	45.4 (44.3~46.6)	49.3 (49.2~49.5)	-8.5
	平成23年度	59.1	61.0			43.3	45.2		
	平成22年度	56.6	61.0 (60.0~62.1)	65.3 (65.1~65.5)	-8.7	32.3	36.6 (35.4~37.0)	43.3 (43.1~43.5)	-11.0
	平成21年度	65.9	69.8	74.5	-8.6	46.8	49.7	56.9	-10.1
	平成20年度	48.7	54.7	60.8	-12.1	36.0	41.5	49.2	-13.2
	平成19年度	59.0	64.0	72.0	-13	44.1	50.6	60.6	-16.5

中学校(理科)		中学校平均正答率(%)			高知市と 全国との差
		高知市(公立)	高知県(公立)	全国(公立)	
	平成30年度	59.7	63.6	66.1	-6.4
	平成27年度	43.6	47.3	53.0	-9.4
	平成24年度	44.1	47.3 (46.5~48.0)	51.0 (50.9~51.1)	-6.9

中学校(英語)		中学校平均正答率(%)			高知市と 全国との差
		高知市(公立)	高知県(公立)	全国(公立)	
	平成31年度	48.8	52.0	56.0	-7.2

※平成22・24年度は抽出調査のため、平均正答率の推計値で示している。

()の数値は平均正答率の95%信頼区間を示している。

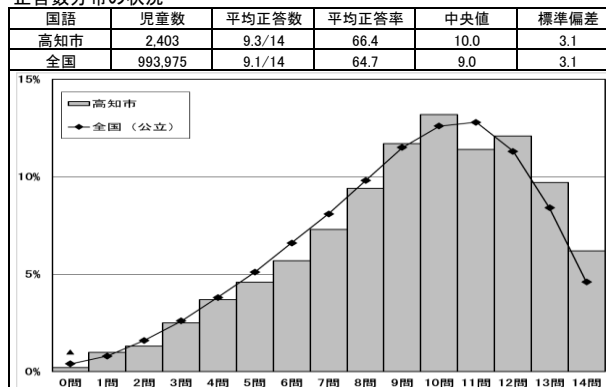
※平成23年度は全国学力・学習状況調査問題を活用した希望利用調査の結果を示している。

5 各教科における高知市の学力の状況（小学校第6学年）

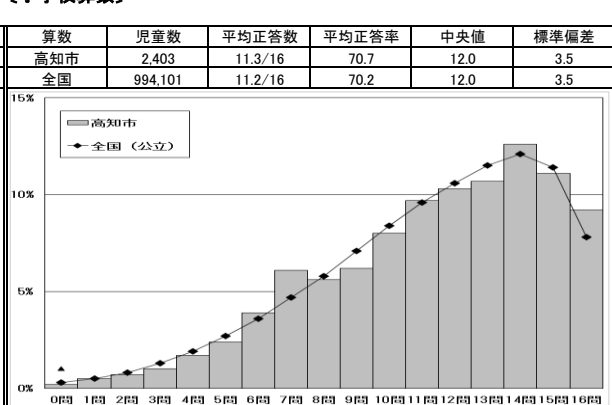
- ・国語、算数とも、「正答数分布の状況」において、全国と同じ形状になっている。また、上位層が全国に比べて多く、成果が見られる。
- ・「問題形式」においては、記述式の正答率が低く、課題が見られる。

【小学校国語】

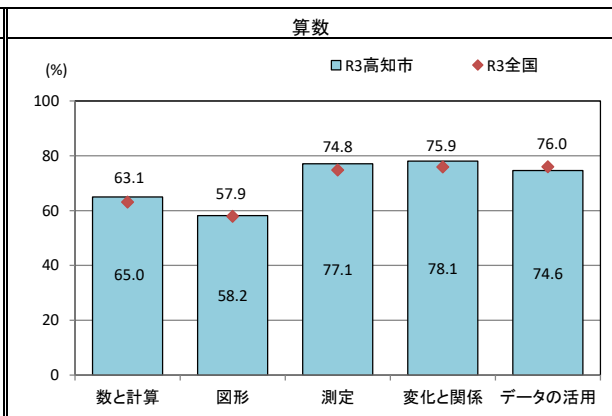
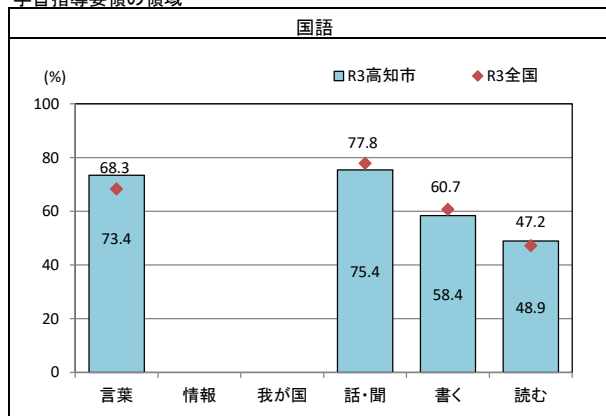
正答数分布の状況



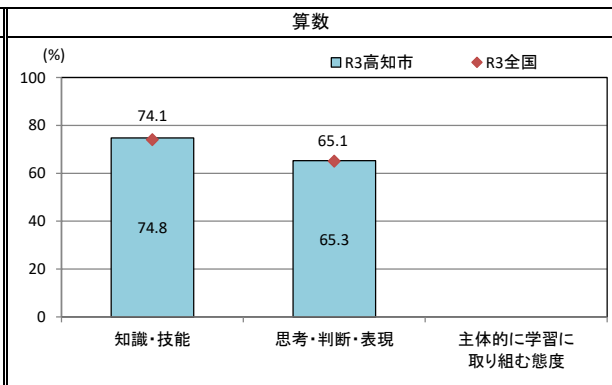
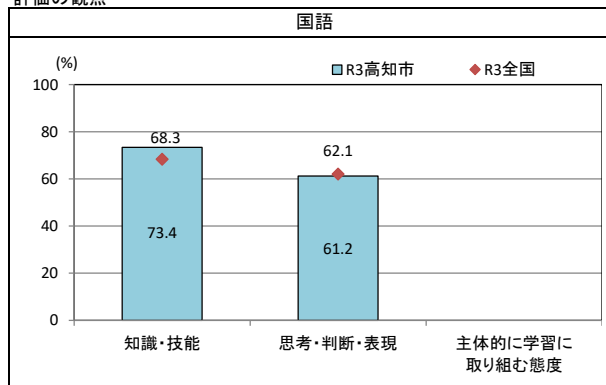
【小学校算数】



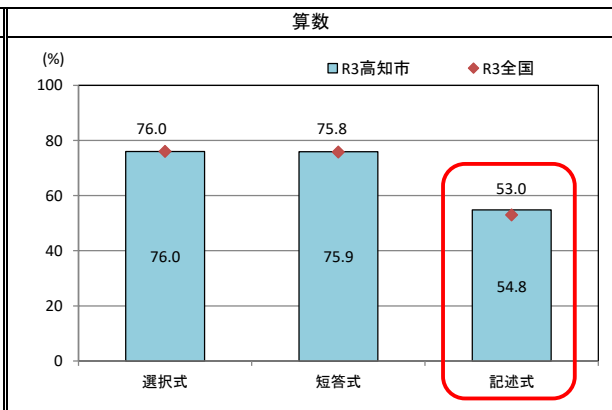
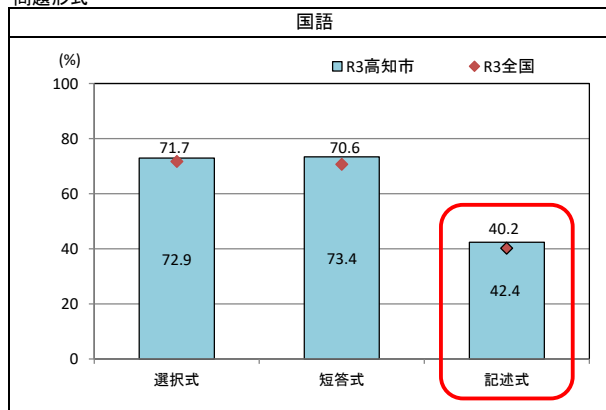
学習指導要領の領域



評価の観点



問題形式

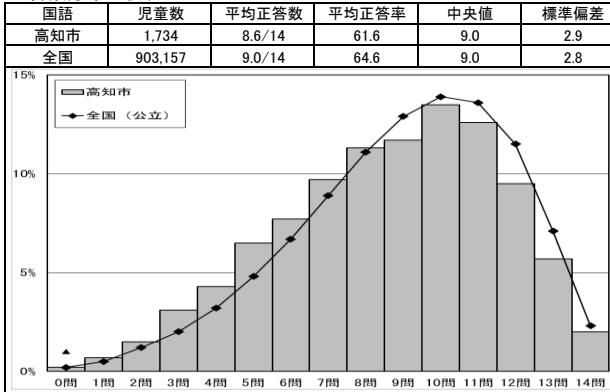


6 各教科における高知市の学力の状況（中学校第3学年）

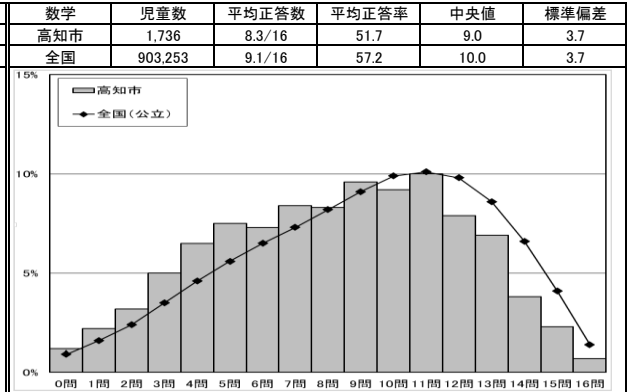
- ・国語、数学とも、「正答数分布」において、中位層から下位層が全国に比べて多い。
- ・「問題形式」において、数学は記述式の正答率が低く、課題が見られる。

〔中学校国語〕

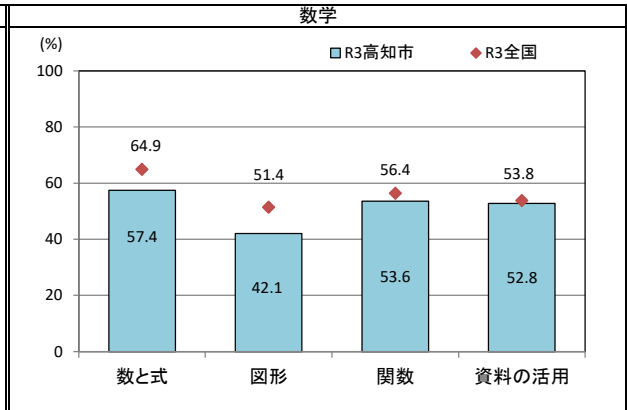
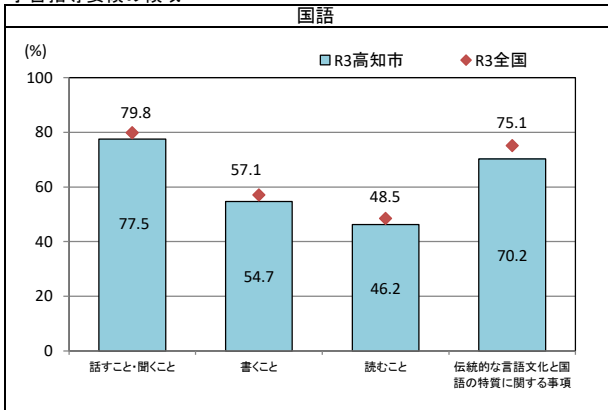
正答数分布の状況



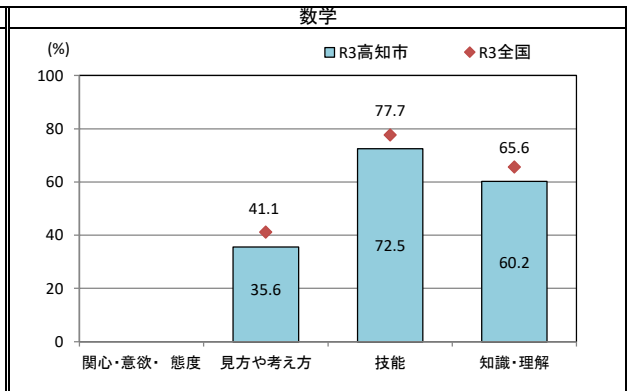
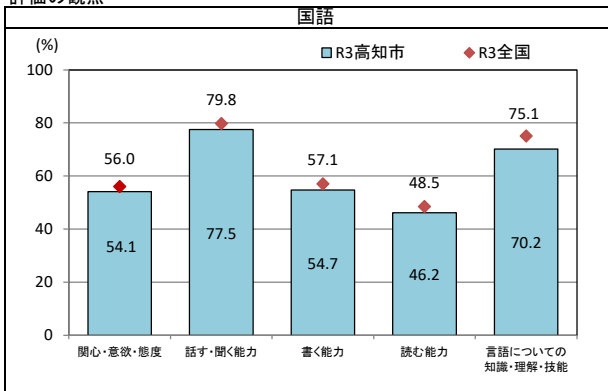
〔中学校数学〕



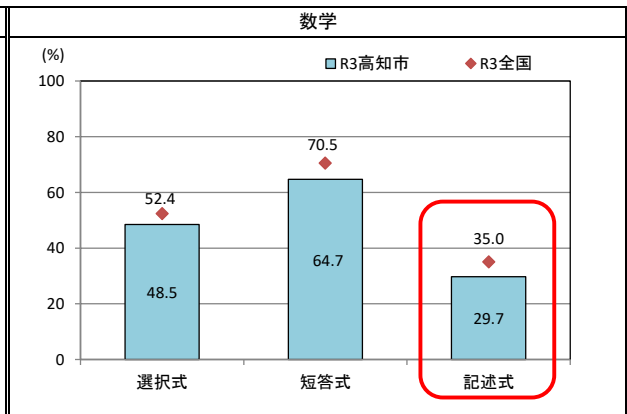
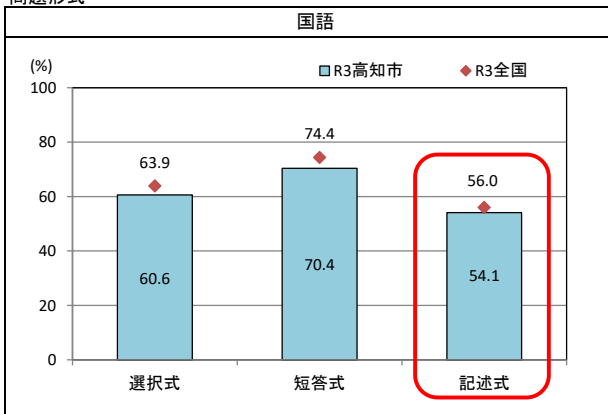
学習指導要領の領域



評価の観点



問題形式



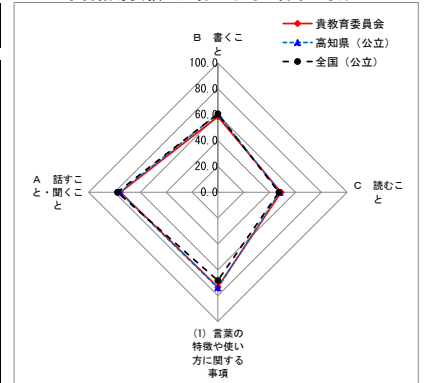
・以下の集計値／グラフは、5月27日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象児童数			高知市教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）	
			2,403	4,920	993,975	
分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
		全体	14	貴教育委員会	高知県（公立） 全国（公立）	
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	6	66	67	64.7
		(2) 情報の扱い方に關する事項	0	73.4	73.9	68.3
		(3) 我が国の言語文化に關する事項	0			
	思考力、判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	75.4	75.9	77.8
		B 書くこと	2	58.4	60.6	60.7
		C 読むこと	3	48.9	47.9	47.2
	評価の観点	知識・技能	6	73.4	73.9	68.3
		思考・判断・表現	8	61.2	61.6	62.1
		主体的に学習に取り組む態度	0			
	問題形式	選択式	8	72.9	72.7	71.7
短答式		3	73.4	74.5	70.6	
記述式		3	42.4	43.4	40.2	

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの区分について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点			問題形式			正答率（％）			無解答率（％）		
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			選択式			貴教育委員会			貴教育委員会		
			(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	(2) 情報の扱いに關する事項	(3) 我が国の言語文化に關する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	貴教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）	貴教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）
1一	津田梅子の二つの業績を明確に伝えるために、【スピーチメモ】と【スピーチ】の練習で上野さんが話した構成の説明として適切なものを選択する	目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える				5・6イ			○	○		74.4	74.7	77.5	0.0	0.0	0.3
1二	津田梅子についての【スピーチ】の練習で、【資料②】と【資料③】を使った理由の説明として適切なものを選択する	資料を用いた目的を理解する				5・6ウ			○	○		72.5	72.4	74.9	0.0	0.1	0.4
1三	津田梅子についての【スピーチ】の練習の【……】の部分で話す内容として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、資料を使って話す				5・6ウ			○	○		79.4	80.7	81.0	0.1	0.1	0.4
2一	面ファスナーに関する【資料】の文章が、何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する	文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する				5・6ア			○	○		77.8	76.1	77.6	0.1	0.1	0.4
2二	面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する	思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う				5・6オ			○	○		88.3	87.1	87.5	0.1	0.1	0.3
2三	面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける				5・6ウ			○		○	36.1	35.9	34.4	4.0	3.5	4.1
2四	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する				3・4ウ			○		○	32.8	31.8	29.7	5.8	4.4	5.5
3一	丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える				5・6イ			○	○		58.6	58.5	64.8	1.2	0.9	2.1
3二	丸山さんの【文章の下書き】の……部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す	目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する				5・6ウ			○		○	58.2	62.6	56.6	9.3	7.0	9.6
3三（1）ア	丸山さんの【文章の下書き】の中の……部アを、漢字を使って書き直す（ころがっている）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う	5・6エ						○		○	79.4	79.8	78.3	7.2	5.7	8.8
3三（1）ウ	丸山さんの【文章の下書き】の中の……部ウを、漢字を使って書き直す（つみ重ね）		5・6エ						○		○	57.6	59.0	54.4	12.0	9.1	14.4
3三（1）エ	丸山さんの【文章の下書き】の中の……部エを、漢字を使って書き直す（ばんいん）		5・6エ						○		○	83.1	84.8	79.0	5.3	4.0	6.6
3三（2）イ	丸山さんの【文章の下書き】の中の……部イで、……部「残されています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係をつかむ	3・4カ						○		○	76.5	77.4	67.0	3.1	1.9	3.8
3三（2）オ	丸山さんの【文章の下書き】の中の……部オで、……部「すぐに」がくわくしている言葉として適切なものを選択する	文の中における修飾と被修飾との関係をつかむ	3・4カ						○		○	55.3	55.1	43.6	3.4	2.1	4.1

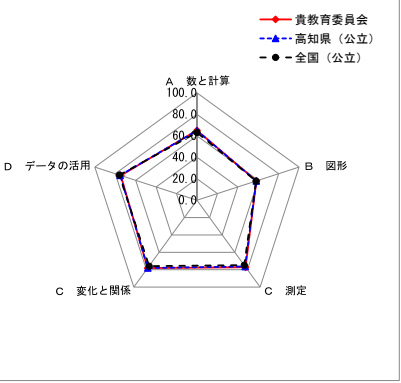
・以下の集計値／グラフは、５月２７日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象児童数		高知市教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）	
		2,403	4,919	994,101	
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）
全体		16	71	71	70.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	4	65.0	64.8	63.1
	B 図形	3	58.2	58.1	57.9
	C 測定	3	77.1	76.3	74.8
	C 変化と関係	3	78.1	78.0	75.9
	D データの活用	5	74.6	75.2	76.0
評価の観点	知識・技能	9	74.8	74.8	74.1
	思考・判断・表現	7	65.3	65.7	65.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	76.0	76.1	76.0
	短答式	6	75.9	76.2	75.8
	記述式	4	54.8	54.8	53.0

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)			
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用			貴教育委員会	高知県(公立)	全国(公立)	貴教育委員会	高知県(公立)	全国(公立)	
1 (1)	二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く	二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる	1 (2) ア(イ) 3 (2) ア(イ) ※		2 (1) ア(ア)			○		○	68.2	66.1	62.5	1.8	1.4	1.7
1 (2)	500mを歩くのに7分間かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる			5 (1) イ(ア) 5 (2) イ(ア)			○		○	87.5	87.7	86.7	1.3	1.1	1.7
1 (3)	㊦と㊧の二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ	速さを求める除法の式と商の意味を理解している			5 (2) ア(ア)		○		○		59.0	58.1	55.8	1.0	0.9	1.4
1 (4)	午後1時35分から50分後の時刻を書く	条件に合う時刻を求めることができる			3 (2) ア(イ)		○			○	88.8	88.8	89.2	0.4	0.4	0.7
1 (5)	分速540mのバスが2700mを進むのにかかる時間を求める式を書く	速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる			5 (2) ア(ア)		○			○	87.7	88.2	85.1	0.7	0.8	1.5
2 (1)	直角三角形の面積を求める式と答えを書く	三角形の面積の求め方について理解している		5 (3) ア(ア)			○			○	52.1	52.6	55.1	0.9	0.8	1.6
2 (2)	直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ	複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる		5 (3) ア(ア)	1 (1) ア(イ)		○		○		74.4	73.9	72.5	0.6	0.6	1.0
2 (3)	二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方をつ捉えて、面積の求め方と答えを記述できる		5 (3) ア(ア) ※			○			○	48.0	47.9	46.0	4.5	3.8	4.6
3 (1)	6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、数量を読み取ることができる				3 (1) ア(イ)	○			○	96.2	96.3	95.8	0.1	0.1	0.4
3 (2)	学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる				3 (1) ア(イ)	○			○	90.8	90.6	90.7	0.1	0.1	0.4
3 (3)	「114」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ	データを二次元の表に分類整理することができる				4 (1) ア(ア) ※	○			○	67.6	67.9	67.5	1.2	0.9	1.7
3 (4)	帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く	帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる				5 (1) ア(ア) ※	○			○	50.4	51.9	52.0	10.5	8.7	10.3
3 (5)	5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ	集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる				5 (1) ア(イ) ※	○		○		68.3	69.5	73.9	1.5	1.1	1.3
4 (1)	余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く	示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる	3 (4) ア(ア) イ(イ)				○			○	82.5	83.2	83.0	1.5	1.2	1.7
4 (2)	8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く	商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる	4 (4) ア(エ)				○			○	56.6	56.6	55.5	1.6	1.2	2.0
4 (3)	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる	4 (4) ア(ア) ※				○			○	52.5	53.4	51.5	10.4	8.4	10.3

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等をみるために用いる知識及び技能を示している。

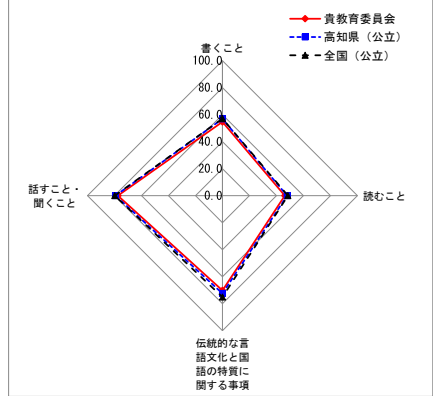
・以下の集計値／グラフは、５月２７日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象生徒数		高知市教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）	
		1,734	4,163	903,157	
分類	区分	対象問題数 （問）	平均正答率（％）		
			貴教育委員会	全国（公立）	
全体		14	62	64	64.6
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	77.5	79.3	79.8
	書くこと	3	54.7	56.9	57.1
	読むこと	4	46.2	47.9	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	70.2	72.4	75.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	54.1	56.8	56.0
	話す・聞く能力	3	77.5	79.3	79.8
	書く能力	3	54.7	56.9	57.1
	読む能力	4	46.2	47.9	48.5
	言語についての知識・理解・技能	4	70.2	72.4	75.1
問題形式	選択式	6	60.6	62.4	63.9
	短答式	4	70.4	72.0	74.4
	記述式	4	54.1	56.8	56.0

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率（％）			無解答率（％）		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	貴教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）	貴教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）
1ー	話合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	話合いの話題や方向を捉える	1オ				○				○			87.0	89.3	89.7	0.1	0.0	0.2
1二	話合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する	質問の意図を捉える	1エ				○				○			90.4	91.4	92.5	0.1	0.1	0.2
1三	参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く	話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える	1オ				○	○				○		55.1	57.3	57.1	4.7	3.6	3.4
2ー	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く	2エ					○			○			26.1	25.8	24.8	0.1	0.1	0.3
2二	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く	書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える	2オ				○	○				○		73.2	76.5	74.5	9.4	7.6	8.5
3ー	「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する			1ア				○		○			43.3	43.3	43.7	0.3	0.3	0.4
3二	「喝采してやる」と「とった」のそれぞれについて、誰の動作なのかを選択する	場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する			1ウ				○		○			51.8	55.0	58.7	0.4	0.4	0.4
3三	「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する			2イ				○			○		66.0	68.3	71.0	9.0	6.9	7.3
3四	「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ			1オ		○		○			○		23.5	25.1	20.5	24.4	20.7	24.1
4ー①	漢字を読む（伸ばして）	文脈に即して漢字を正しく読む			2 (1)ウ (7)					○		○		96.7	97.4	97.5	1.8	1.4	1.5
4ー②	漢字を読む（詳細）				2 (1)ウ (7)					○		○		84.5	85.0	88.8	2.5	2.3	2.3
4二	「随時」の意味として適切なものを選択する	事象や行為などを表す多様な語句について理解する			1 (1)イ (9)					○	○			65.1	69.8	74.0	1.0	0.7	1.1
4三	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	相手や場に応じて敬語を適切に使う			2 (1)イ (7)					○		○		34.4	37.1	40.3	1.5	1.1	1.7
4四	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く			2ウ		○	○				○		64.8	68.3	71.9	13.6	10.8	9.7

・以下の集計値／グラフは、5月27日に実施した調査の結果を集計した値である。

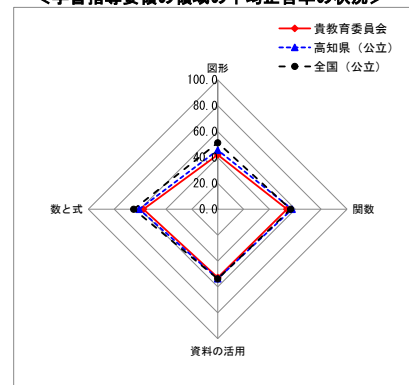
集計結果

対象生徒数		高知市教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）
		1,736	4,164	903,253

分類	区分	対象問題数 （問）	平均正答率（％）		
			貴教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）
全体		16	52	55	57.2
学習指導要領の領域	数と式	5	57.4	60.7	64.9
	図形	4	42.1	45.7	51.4
	関数	3	53.6	57.5	56.4
	資料の活用	4	52.8	53.7	53.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	7	35.6	38.5	41.1
	数学的な技能	3	72.5	74.0	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	6	60.2	63.6	65.6
問題形式	選択式	2	48.5	50.3	52.4
	短答式	9	64.7	67.7	70.5
	記述式	5	29.7	32.7	35.0

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>

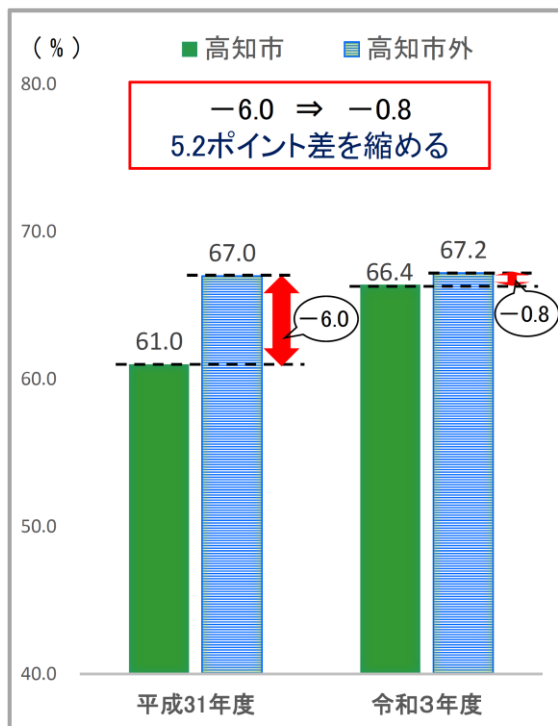


問題別集計結果

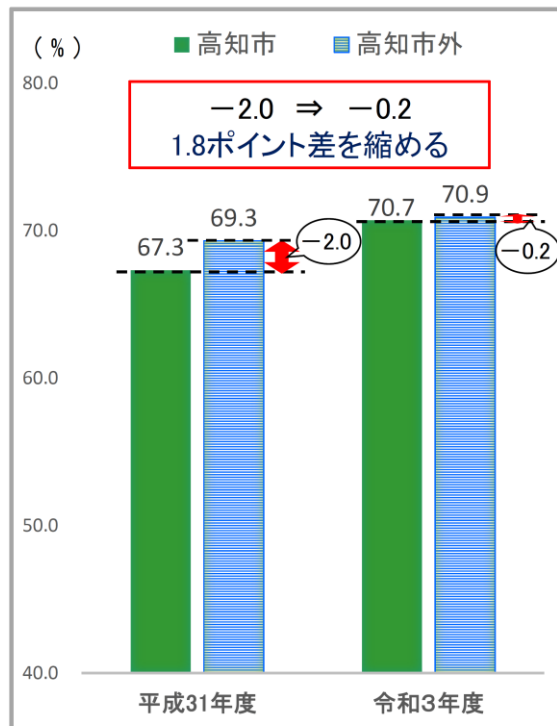
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率（％）			無解答率（％）		
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	貴教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）	貴教育委員会	高知県（公立）	全国（公立）
1	$(5x+6y)-(3x-2y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算ができる	2(1)ア						○		○			70.8	72.9	77.1	1.4	0.9	0.8
2	数量の関係を一元一次方程式で表す	具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる	1(3)ウ						○		○			62.0	64.4	71.3	10.4	7.9	7.6
3	中心角 60° の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ	扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している		1(2)フ					○	○				61.5	63.9	68.1	0.6	0.4	0.3
4	経過した時間と影の長さの関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している			1(1)ア				○		○			43.3	50.0	48.0	10.7	7.6	9.3
5	反復横とびの記録の中央値を求める	与えられたデータから中央値を求めることができる				1(1)ア			○		○			84.6	84.7	84.5	1.4	1.0	1.0
6(1)	四角で囲んだ4つの数が12, 13, 17, 18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	2(1)イ,フ						○		○			79.8	82.0	83.9	3.9	3.1	3.5
6(2)	四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいくつでも4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(1)イ,フ						○		○			52.8	57.6	61.8	17.7	14.0	15.4
6(3)	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる	2(1)イ,フ						○		○			21.8	26.4	30.3	29.5	24.3	29.9
7(1)	与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる			1(1)ウ				○		○			91.8	93.1	93.5	2.4	1.9	2.0
7(2)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			1(1)エ,オ				○		○			25.6	29.3	27.7	21.5	18.7	24.7
8(1)	気温差が9℃以上12℃未満の階級の度数を書く	ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる				1(1)ア				○	○			78.9	81.7	83.0	5.4	4.0	4.2
8(2)	2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ	相対度数の必要性和意味を理解している				1(1)ア				○	○			35.4	36.7	36.8	1.6	1.0	1.0
8(3)	「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる				1(1)イ			○		○			12.3	11.7	11.1	30.9	26.3	32.2
9(1)	四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる		2(2)イ,フ					○		○			35.7	38.7	44.3	5.8	4.7	3.6
9(2)	錯角が等しくなることについて、根拠となる直線FEと直線BCの関係を、記号を用いて表す	錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している		2(1)ア					○		○			50.1	56.1	64.3	19.9	15.3	14.2
9(3)	$\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く	ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見いだし、それを数学的に表現することができる		2(1)ア					○		○			20.9	24.1	28.8	29.0	25.2	28.7

全国学力・学習状況調査の結果～高知市と高知市外との差～（小学校）

【国語】

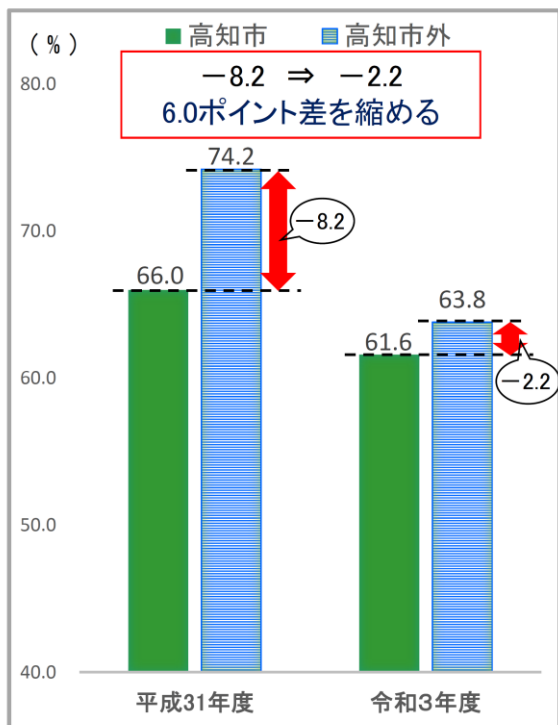


【算数】

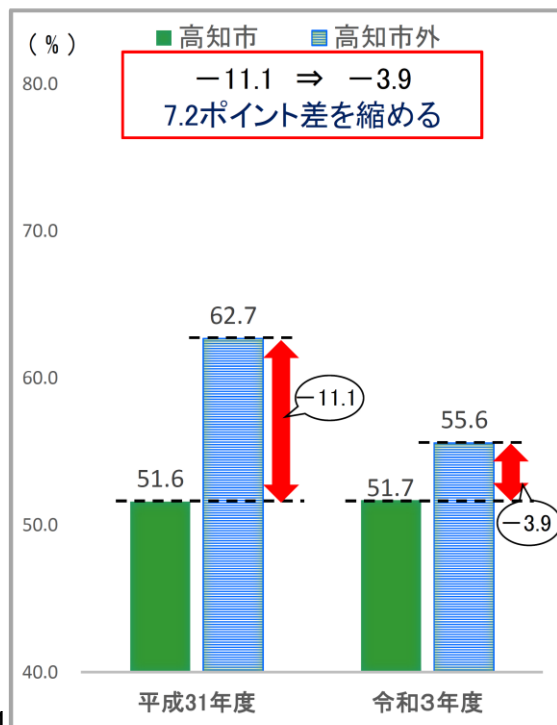


全国学力・学習状況調査の結果～高知市と高知市外との差～（中学校）

【国語】



【数学】

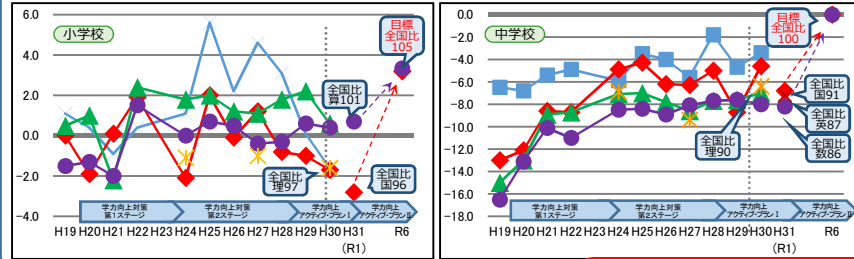


第Ⅱ期 学力向上 Active アクティブ・プラン 令和3年度～令和6年度（4年間）

高知市教育委員会

学力の状況

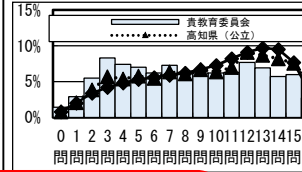
H19～H31全国学力・学習状況調査経年結果（全国平均との差）



○成果○

これまでの取組から、学習時間の少ない児童生徒が減少するとともに、各校において校内研修が充実してきたことにより全国平均との差が改善傾向にある。

H31中学校数学正答率分布グラフ（横軸：正答率、縦軸：生徒数割合）



●課題●

全国学力・学習状況調査において、小学校は近年下降傾向にあり、中学校は依然として全国平均に届いていない状況である。特に記述式の問題における正答率が低いことや、中学校数学における全国平均との差が明らかな縮小傾向にないことなどに課題が見られる。中学校数学においては、左下のような分布の状況になっており、中位層から下位層の学力の底上げが喫緊の課題となっている。

このようなことから、今後、継続的な授業改善を進めるとともに、学力の定着を図るために、家庭学習や帯タイム、放課後学習等の授業以外の取組にも力を入れ、それらの取組にICTを効果的に活用するよう各学校を支援する必要がある。

令和6年度 の到達目標

小学校は全国上位、中学校は全国並みの学力が身に付いている。

【全国学力・学習状況調査】
全国平均を100としたとき
小学校・義務教育
学校前期課程 全国比 105
中学校・義務教育
学校後期課程 全国比 100

Active1 組織的なRPDCAサイクルの確立

(1)メンター制を活用した人材育成

○各校において初任者をはじめとする若年教員を中心としたメンターチームを編成し、日常的なOJTの活性化を図る。

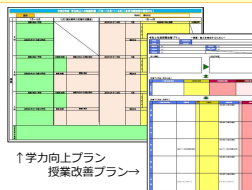
	R2	R3	R4
小学校	18校	初任者が配置された全ての学校	
中学校	3校	初任者が配置された学校の約半分	

(2)中学校における「タテ持ち」型、「教科間連携」型の体制によるライン機能の強化

○「タテ持ち」型の学校においては定期的な教科会を実施する。
○「教科間連携」型の学校においては定期的なチーム会を実施する。

(3)小学校における学力向上プラン（仮）及び、中学校における授業改善プランに基づく取組の充実

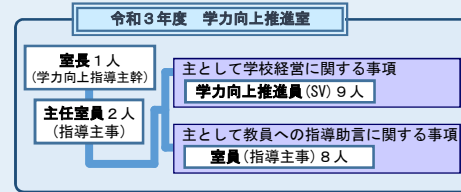
○全国学力・学習状況調査と高知県学力定着状況調査を目標設定及び実態把握の機会として、学力向上の検証改善サイクルを各小学校にて充実させる。
○各中学校において教科共通の取組を中心として、各教科における検証改善サイクルを充実させる。



Active2 各校の学力向上の取組への支援

(1)学校教育課による訪問指導の充実

○指導主事等による訪問指導
〈学力向上推進室による訪問指導〉



各校の実態に応じた継続的な訪問指導

・学力向上推進員による学校経営や初任者育成、各校の要請に対する訪問指導（管理職：年複数回）（初任者：年複数回）
・指導主事による授業改善や学力向上についての訪問指導（要請・指定校：各校の計画による）（教科会：月複数回）
①学校経営計画に基づく訪問 ②初任者育成に向けての指導訪問
③高知市授業研究指定校事業 ④中学校組織力向上のための実践研究事業
⑤授業改善プランに基づく学校訪問 ⑥高知の授業の未来を創る推進プロジェクト

(2)教育研究所による研修及び訪問指導

○若年教員集合研修の実施
○指導力向上に向けた研修の実施
○若年教員に対する訪問指導 等

Active3 学習指導要領の趣旨に沿った取組の充実

新しい時代を切り拓いていく資質・能力の育成を目指して、学習指導要領（平成29年告示）の理解を基に、その趣旨に沿った取組の充実を図るために、研修や学校訪問を実施する。特に、ICT等を効果的に活用した学習活動、外国語教育の充実を図っていく。

(1)ICT等を効果的に活用した学習活動の充実

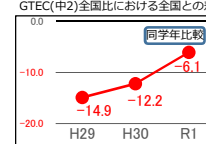
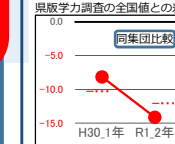
○学びの質を高めるために電子黒板やデジタル教科書等を効果的に活用し、児童生徒に必要な資質・能力を養う。
○オンライン学習に対応した教材作成
○産官学連携によるICT活用推進協議会の設置及び授業事例提供
○1人1台タブレットでの高知県版学習プラットホームの活用推進



(2)外国語教育の充実

○外国青年招致事業
市立学校にALTを派遣し、外国語教育や国際理解教育の充実を図る。
○英語教育強化推進事業
・英語4技能調査を通して、児童生徒の英語力を把握・分析し、授業改善を図る。
・英語教育推進校にALTを配置し、その取組成果を発信することで市全体の外国語教育の充実を図る。
・拠点校を指定し、訪問指導や公開授業等により、外国語教育の研究推進や授業改善を図る。

外国語（英語）の学力の状況



厳しい学力状況の要因としては、育成を目指す資質・能力が変わってきているにも関わらず、授業において、依然として「文法を教える、練習し、使う」という指導が行われており、生徒が「思考、判断して表現する言語活動」が行われる機会が少ないことが考えられる。
改善策として、目標と指導と評価がつながる授業づくりを目指し、核となるリーダー教員の育成に力を入れると共に、授業づくり講座や教科会訪問等を通して、授業改善を図る。

第Ⅰ期 学力向上 Active アクティブ・プラン 平成29年度～令和2年度（4年間）

Active1 各事業のRPDCAサイクルを確立し改善を図る

次の4点を通して改善を図る。

- ① これまで以上に機動性をもって指導できる体制を強化するための学力向上推進室を設置して学校訪問と進捗管理を行う。
- ② 学びの羅針盤（授業づくりハンドブック）及び授業アイデア例の活用と実践
- ③ 学力向上への取組計画（50日・100日プラン）及び授業改善プランの実施と検証
- ④ 単元テストによる個人カルテの活用

Active2 各校の状況分析及必要な手立ての提案

教員の授業力向上や授業改善を推進するため、高知県学力向上総括専門官（齊藤一弥氏）を招聘し、指導主事等との訪問指導により、各校の状況分析及必要な手立てを提案する。国語、算数・数学、理科、社会、外国語を中心とした授業改善を推進し、その取組を高知市全体に普及することで学力の向上につなげる。

① 学力向上推進室を中心とした訪問指導の充実：H30～R2

Active3 新学習指導要領の理解と教育課程の編成

新しい時代を切り拓いていく資質・能力の育成を目指して、新学習指導要領の理解を深め、移行期の取組を推進するために、教育課程に関する研修や学校訪問を実施する。また、カリキュラム・マネジメントモデル事業を継続し、研究モデル校の取組を基に各校における教育課程の改善に資する。

教育課程に関する研修・学校訪問

新学習指導要領に関する研修等の実施、教育課程の編成をサポートする学校訪問

カリキュラム・マネジメントモデル事業（H29年度から継続）

研究モデル校において、先進地への視察やモデルプラン作成、県外講師を招聘しての研修など、先進的に新学習指導要領を具現化する取組を推進する。

学力向上の取組の成果と課題、今後の取組について

高知市教育委員会

	小学校	中学校
(1)結果	全国レベルを維持し、国語・算数とも全国平均を上回る結果となっている。	調査実施以降、国語・数学とも最も全国との差を縮めているが、全国平均を下回る結果となっている。
(2)成果	下降傾向にあった国語が改善し、国語・算数とも全国レベルの学力を維持している。	全国平均には届いていないものの、国語・数学とも平成31年度と比較すると差は縮まっている。
(3)課題	目標である全国比105に達していない。	目標である全国比100に達していない。
(4)今後の取組	①教科担任制を活用した取組、小中の系統性を捉えた学習指導の工夫等を踏まえた市指定校への指導訪問 ②ICTの効果的な活用についての指導・助言	①教科を拡充した教科会、教科主任会への訪問、系統性を捉えた学習指導の工夫等を踏まえた重点指導訪問 ②ICTを活用した学習の定着に向けた指導・助言
(1)結果	① H19～R3における高知市平均と全国平均との差の推移 ② H31→R3 正答数分布の変容 【平均正答率】 国語 66.4%(全国との差 +1.7P) 国語 103 算数 70.7%(全国との差 +0.5P) 算数 101 国算平均 102 【学力調査全国100に対する割合】 国語 66.4%(全国との差 +1.7P) 国語 103 算数 70.7%(全国との差 +0.5P) 算数 101 国算平均 102 ①過去最高の結果であったH25に次いで、本年度は全国値を上回る結果となった。H28以降、下降傾向にあった国語に改善が見られる。 ②H31と比較すると、国語の正答数分布状況において下位層が減少し、国語、算数とも上位層が増加している。	① H19～R3における高知市平均と全国平均との差の推移 ② H31→R3 正答数分布の変容 【平均正答率】 国語 61.6%(全国との差 -3.0P) 国語 95 数学 51.7%(全国との差 -5.5P) 数学 90 国数平均 93 【学力調査全国100に対する割合】 国語 61.6%(全国との差 -3.0P) 国語 95 数学 51.7%(全国との差 -5.5P) 数学 90 国数平均 93 ①H19調査実施以降徐々に学力は改善している。H29以降の停滞状況から本年度は国語・数学とも改善は見られるものの、全国平均は下回っている。 ②H31と比較すると、数学の正答数分布状況に改善は見られるが依然として下位層が厚い。
(2)成果	下降傾向にあった国語が改善し、国語・算数とも全国レベルの学力を維持している。 ①学力向上推進員による「学校経営計画に基づく訪問」により、各校における学力向上に向けた取組の見直し、取組の効果の検証を計画的に行う学校が増え、課題解決に向けた実効性のある取組が進められてきた。 ②平成30年度から3年間で全ての小学校に指定事業を実施し、学力向上推進員、指導主事による指導訪問を行ったことで、学習指導要領の趣旨を捉えた授業改善が進んできた。	全国平均には届いていないものの、国語・数学とも平成31年度と比較すると差は縮まっている。 ①学力向上推進員による「学校経営計画に基づく訪問」の実施、校長会と連携を図ることで、市一丸となって学力向上を目指す意識が高まった。 ②指導主事が教科会に定期的に訪問し、学力調査分析、具体的な改善策等を指導・助言することで、学習指導要領の理解や求められる授業イメージを具体的に持つことができ、学校としての意識改革につながった。
(3)課題	目標である全国比105に達していない。 ①学校経営計画等と実践のつながりが十分でない学校や単発的で個の実践に留まり学校全体への広がりに至っていない学校が見られる。取組の質の向上のため、引き続き学校の実態を捉えた支援が必要である。 ②若年教員が増加する中で、メンター制を活用した授業力向上に向けた効果的な取組への学校運営及び授業改善への指導・助言が引き続き必要である。	目標である全国比100に達していない。 ①組織として統一した学力向上の取組を進めている学校は成果が現れているが、個人や教科内に留まり、学校全体の組織的な動きにつながっていない学校が見られる。組織運営に対しての重点的な支援が必要である。 ②学校として主体的に学力調査から見られる課題解決を行うことができるよう、分析、改善の手立て等へのさらなる指導・助言が必要である。
(4)今後の取組	①教科担任制を活用した取組、小中の系統性を捉えた学習指導の工夫等を踏まえた市指定校への指導訪問 ②ICTの効果的な活用についての指導・助言 (学習指導の工夫、学習の定着に向けたタブレット・ドリルの活用等)	①教科を拡充した教科会、教科主任会への訪問、系統性を捉えた学習指導の工夫等を踏まえた重点指導訪問 ②ICTを活用した学習の定着に向けた指導・助言 (タブレット・ドリルを活用した定着の取組、授業における効果的な活用等)

令和3年度高知県・高知市 知事・市長及び教育長連携会議

不登校対策について

高知市のこれまでの取組の成果・課題

高知市教育研究所
令和3年10月14日（木）

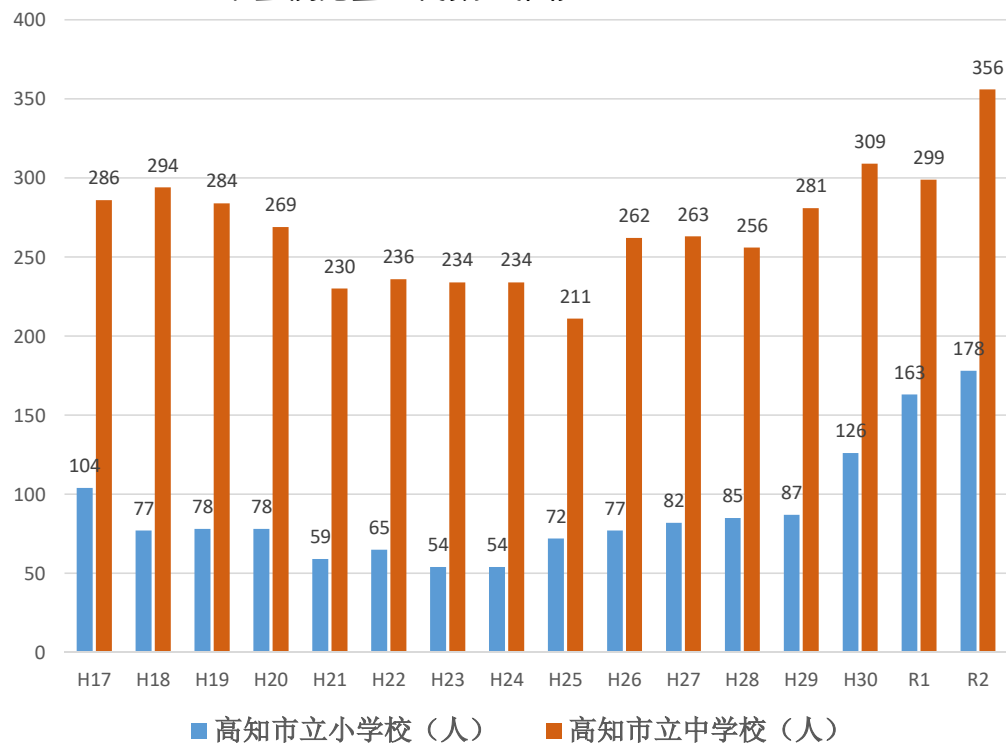
高知市の不登校対策への取組

(1) 高知市の不登校児童生徒の現状

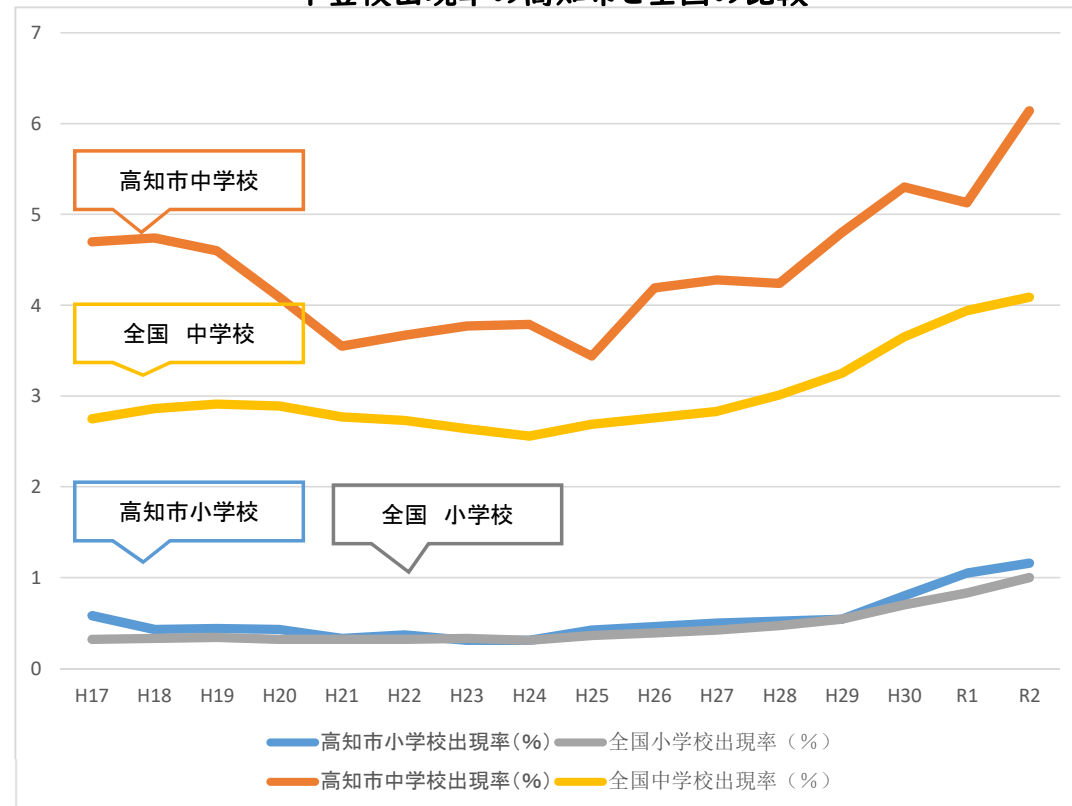
- ・平成25年度より増加傾向に転じ,ここ数年は増加の割合が大きい。
- ・全国の出現率の傾向から見ると高知市も同様の傾向にあるといえる。
- ・高知市の出現率は,小学校等は,全国値よりやや高いが,中学校等には大きな開きがある。

(1) 高知市の不登校児童生徒の現状

不登校児童生徒数の推移



不登校出現率の高知市と全国の比較



高知市の不登校対策への取組

- (2) 国の不登校児童生徒への支援の流れ
 - ・学校等の取組の充実
- (3) 高知市の不登校対策
 - ・高知市校内型適応指導教室研究実践モデル校（城北中学校）の取組
 - ・高知県不登校支援推進プロジェクト事業指定校（城東中学校）の取組

(2) 国の不登校児童生徒への支援の流れ

- 「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」（平成29年2月14日施行）
- 「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する基本指針」（平成29年3月31日策定）
 - 【上記の基本指針により、特に強調された支援策】
 - 不登校児童生徒に対する効果的な支援の推進
 - ①個々の不登校児童生徒の状況に応じた支援の推進
 - ②不登校児童生徒に対する多様な教育機会の確保
- 「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律の施行状況に関する議論の取りまとめ」（令和元年6月21日）
- 「不登校児童生徒への支援の在り方について」（令和元年10月25日通知）

- 【通知の要旨】
 - 1 不登校児童生徒への支援に対する基本的な考え方
 - 「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、支援の視点を、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があると示すとともに、不登校の時期が休養や自分を見つめ直す等の積極的な意味を持つことがあるとしている。
 - 2 学校等の取組の充実
 - 不登校児童生徒に対する効果的な支援の充実や、不登校児童生徒の登校に当たっての柔軟な受入体制が重要であると示すとともに、不登校児童生徒に対する多様な教育機会の確保が必要であるとしている。
 - 3 教育委員会の取組の充実
 - 多様な教育機会の確保が必要
 - 教育支援センターの整備充実及び活用を図り、不登校児童生徒への支援の中核となることが期待されている。

(3) 高知市の不登校対策

全ての児童生徒を対象	登校が安定しない児童生徒を対象
○各学校での魅力ある（不登校を生ませない）学校づくり ・未然防止に向けた関係者・多面的な支援体制の充実 ・学級経営の充実（Q・Uアンケートやあったかアンケートの活用） ・主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進	○未然防止、早期発見・早期対応の取組 ・校内支援委員会の効果的な運用・学校設置SCやSSW等を含めた「チーム学校」での取組・不登校担当教員配置校への取組
学級集団や児童生徒の実態の把握	スクールソーシャルワーカーの派遣
■事業内容 「楽しい学校生活を送るためのアンケートQ・U」や「あったかアンケート」を活用し、学級集団や児童生徒等の様子を見取り、人間関係づくりの活動や、状況によっては、早期に個別に合わせた支援を行う。 ■事業年度 平成22年度から ■令和3年度事業費 1,588千円	■事業内容 17名のスクールソーシャルワーカーを中学校区を中心に派遣し、児童生徒を取り巻く背景の課題に対して、家庭や学校、福祉機関や医療機関等に働きかけ、子どもの環境の改善を図る。 ■事業年度 平成30年度から ■令和3年度事業費 39,093千円
市教育委員会発行のハンドブック等の効果的な活用	不登校児童生徒の学力保障と自立に向けた支援の充実
■事業内容 「魅力ある学校づくり」の取組を支援するために、学校において、教育委員会が、作成、配付した「今、学校に求められる生徒指導の「3つの力」」や「学級経営ハンドブック（小学校・中学校）」、「学びの羅針盤」、「不登校支援ハンドブック」等の冊子を効果的に活用する。	○不登校児童生徒の学力保障と自立に向けた支援の充実 ・教育支援センターの体制強化と機能の充実・多様な学びの場の確保・相談機能の強化（教育支援センター設置SCの活用） 不登校児童生徒の自立に向けた教育支援センターの相談機能と支援体制の強化
	■事業内容 教育支援センターにセンター長、指導主事、心理の専門家であるスクールカウンセラー、経験豊富な専任教育相談員を配置し、教育相談機能の充実を図り、保護者からの相談対応を充実させるとともに、受け入れた不登校児童生徒一人一人の的確な見立てをして、児童生徒の状況やニーズに応じた体験活動や授業等を行い、社会的自立や学力保障を目指した支援を行う。 ■事業年度 平成31年度から ■令和3年度事業費 5,720千円
	校内における多様な学びの保障に向けた実践研究
	高知市校内型適応指導教室研究実践モデル校における研究推進
	■事業内容 モデル校に担当の教員を配置し、在籍する不登校生徒（別室対応や保健室対応の生徒を含む）の学習活動の場を保障し、その教育課程等を調査・研究を行い、成果と課題を発信する。 ■事業年度 令和2年度から
	県教育委員会「不登校支援推進プロジェクト事業」配置校との連携
	■事業内容 「校内適応指導教室」を設置する。 ■事業年度 令和3年度（新規）

拡大

校内における多様な学びの保障に向けた実践研究

高知市校内型適応指導教室研究実践モデル校における研究推進

- 事業内容
モデル校に担当の教員を配置し、在籍する不登校生徒（別室対応や保健室対応の生徒を含む）の学習活動の場を保障し、その教育課程等を調査・研究を行い、成果と課題を発信する。
- 事業年度 令和2年度から

県教育委員会「不登校支援推進プロジェクト事業」配置校との連携

- 事業内容 「校内適応指導教室」を設置する。
- 事業年度 令和3年度（新規）

高知市の不登校対策への取組（多様な学びの場の保障）

（1）高知市校内型適応指導教室研究実践モデル校 城北中学校「サポーター室」の取組（令和2年度～）

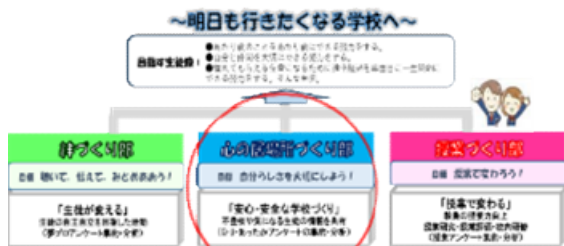
- ①校内組織「心の居場所づくり部」で企画・運営について協議する
- ②「全ての教職員が関わることで、子どもが成長する環境をつくっていくことができる」という考え方で運営する
- ③各教科1時間、計10時間の時間割を3時間目以降に設定し、教科担当教員が子どもの状況に合わせて授業を行う
- ④GIGAタブレットを活用した授業の同時配信を行う

（2）高知県不登校支援推進プロジェクト事業指定校 城東中学校「学びの保健室タンポポルーム」の取組（令和3年度～）

- ①特別支援教育の考え方を基盤とし、子ども一人一人の状況に応じて、個別最適化を図り、学習における成功体験を増加させる
- ②全ての教職員が、「タンポポルーム」で授業（週時間割で決定）を行い、生徒が受ける授業を自主的に決めて、参加する

（1）高知市校内型適応指導教室研究実践モデル校 城北中学校「サポーター室」の様子

○校内組織図（抜粋）



拡大

心の居場所づくり部
目標 自分らしさを大切にしよう

「安心・安全な学校づくり」
不登校や気になる生徒の情報を共有
(Q-U・あったかアンケートの集約・分析)

○サポーター室の時間割と授業の様子

	月	火	水	木	金
1					
2					
3				数学 技術	
4	社会	美術	理科		
5		英語	音楽	理科	
6	家庭		国語		



○GIGAタブレットを活用した授業の同時配信



（2）高知県不登校支援推進プロジェクト事業指定校 城東中学校「学びの保健室タンポポルーム」の様子

○タンポポ1 小集団での学習活動



○週時間割にタンポポ1での授業が設定
子どもが受けたい授業を主体的に決定

○タンポポ2 個別学習のスペース



○タンポポルーム専用の玄関



高知市不登校担当教員配置校の取組の成果と課題（Ⅱ-Ⅰ）

（Ⅰ）高知市不登校担当教員配置校の状況

①R1年度（配置前）とR2年度（配置1年目）の出現率増減

成果：小学校2校，中学校1校が出現率が減少している。小学校4校が高知市平均より少ない。

課題：中学校5校の出現率が増加しており，うち4校は高知市平均より多い。

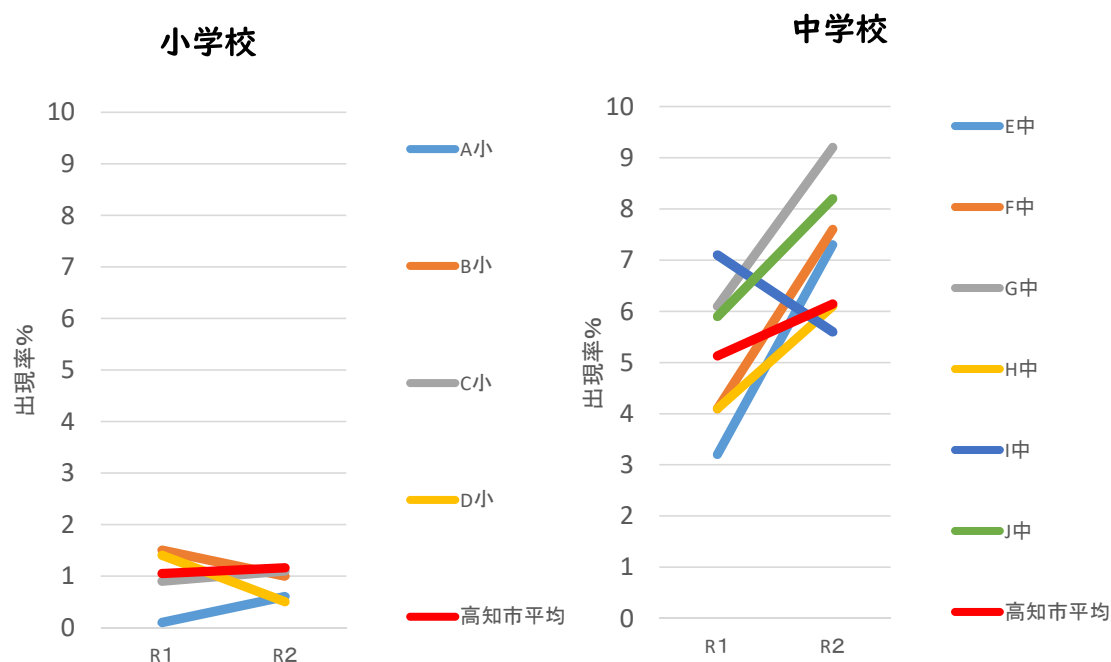
②R3年度（配置2年目：H小は1年目）7月末段階の出現率と高知市平均との比較

成果：小学校1校，中学校2校が高知市平均より少ない。

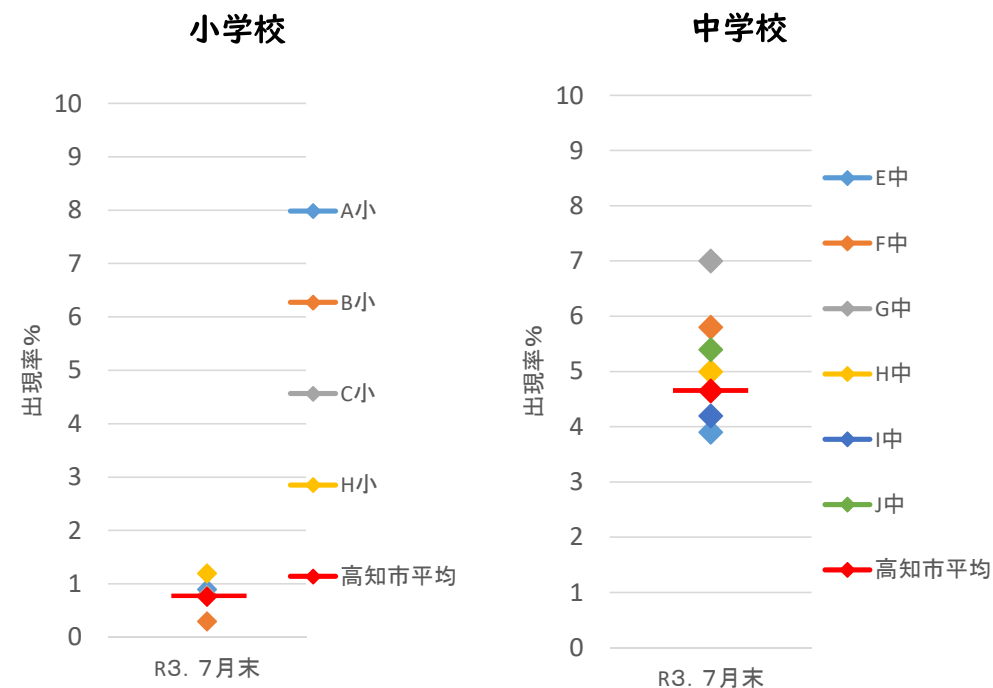
課題：中学校2校が高知市平均から1P以上多い。

（Ⅰ）高知市不登校担当教員配置校の状況

①R1年度（配置前）とR2年度（配置1年目）の出現率増減



②R3年度（配置2年目：H小は1年目）7月末段階の出現率と高知市平均との比較（暫定値：出停除く）



高知市不登校担当教員配置校の取組の成果と課題（Ⅱ-2）

（2）高知市不登校担当教員連絡会の実施

目的：不登校の未然防止，早期発見・早期対応，抜かりのない支援を行う組織的な校内支援体制の構築や，学校における不登校支援対応力の向上を図る。

配置校の取組を共有するとともに，冊子やリーフレットの配付，研修会での実践発表を行い，取組を高知市全体に広げる。

実施日数：5日間（県教委主催の年2回の研修以外）

（3）小中連携による取組の実施（対象学校：I中学校，A小学校，B小学校）

（4）成果と課題

（2）高知市不登校担当教員連絡会の実施

①令和2年度

第1回（4月13日）不登校担当教員の役割

第2回（5月26日）校内支援会の質的向上のために

第3回（8月5日）組織で行う不登校対応

⇒冊子「10人の仲間に学ぶ 不登校支援の技と工夫
そして熱意」を配付

第4回（10月13日）初期対応ブラッシュアップのための
不登校支援委員会の在り方

第5回（2月8日）不登校支援担当者会で実践発表
小学校「個別の支援会から学校全体の支援ニーズを
検討する会へシフト」

中学校「『生徒の変化に気づく・変化を起こす』ことを
重視した不登校支援」

②令和3年度

第1回（4月20日）早期発見・初期対応について

⇒リーフレット「ラポール」

第2回（5月25日）不登校の未然防止「6月をどう乗り
越えるか」

⇒リーフレット「ラポール」

第3回（7月15日）つながりを大切にする夏休み中の
支援」

⇒リーフレット「ラポール」

（3）小中連携による取組に実施

①取組

- ・小中学校の不登校支援委員会へ，それぞれの担当教員が日常的に参加し，情報共有を行う。
- ・中学校入学前のクラス編成を検討する際，2つ小学校の教員が参加し，情報を出し合い協議する。
- ・一日入学については随時対応した。
- ・令和2年度は「高知市教育研究所研究員」として，グループ研究を行った。
（テーマ）「個に応じた対応をするために組織で行う不登校対応の仕組みー子どもの社会的自立を支える小中連携の在り方ー」

②成果

- ・きょうだいケースにおいては，小中学校がともに協議し，一緒に家庭訪問を行い，連携して支援ができた。
- ・日常的に小中学校が，特に6年生の状況について共有することで，配慮を要する児童については，入学前から保護者や本人が中学校の教員に相談できた。
- ・小中連携が日常的に行われ，教員の顔が見える関係になり，日頃の支援や支援会の持ち方を互いに相談でき，中学校へのスムーズな接続につながっている。
- ・中学校においては，令和2年度には出現率が減少した。

（4）成果と課題

①成果

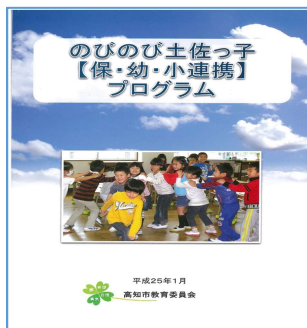
- ・不登校支援が，個別の支援会を中心であった小学校において，学校全体の支援を検討する会が定期的に行うようになり，組織的な支援体制の構築できた。
A小：毎週木曜日2時間目に実施
B小，C小：毎月1回実施
H小：毎週火曜日放課後に実施
各学校ともに，管理職，不登校担当，児童支援担当，養護教諭，SC，SSW，教育研究所担当，不登校対策アドバイザーなどが参加している。
- ・定期的に支援会が開催している中学校では，早期発見・初期対応の視点に重点を置くよう，資料の工夫ができた。
E中，F中：支援レベルごとの検討
G中：状況を矢印で見える化
H中，J中：うまくいっている取組を共有
H中：新規の確認
I中：短期目標に向けての具体的な支援を明示
- ・10校の取組を校長会や市内全校の不登校支援担当者が参加する連絡会で報告したり，リーフレットを配付したりして，高知市全体に広げることができた。

②課題

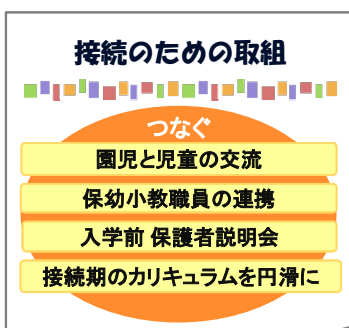
- ・高知市立小学校，中学校とも不登校児童生徒数は増加傾向にある。
- ・未然防止の観点から，「分かる楽しい授業づくり」や「学級経営の充実」を図っていく。
- ・多様な学びの場の保障に向けた，一人一人の状況に応じた支援の取組を行う。

1 保・幼・小連携で人をつなぐ・組織をつなぐ・教育をつなぐ(指針)

指針の目的:人・組織・教育をつなぐ取組を通して、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続の実現と双方の充実を目指す。



保・幼・小連携の指針(平成24年度作成)



2 保・幼・小連携推進地区事業(R25年度8校区~R3年度36校区)

概要:令和3年度は36小学校区(36小学校・のべ97園)を連携推進地区として指定し、「のびのび土佐っ子【保・幼・小連携】プログラム」で提案した「人をつなぐ」「組織をつなぐ」「教育をつなぐ」取組を進め、その先進事例を、保・幼・小連携研修会や冊子を通して、高知市全体に広げていく。

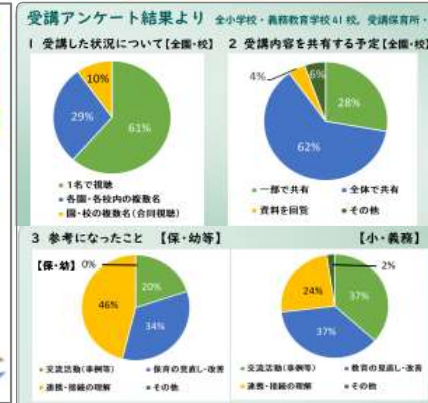


3 保・幼・小連携研修会(平成24年度より実施 保育幼稚園課共催)

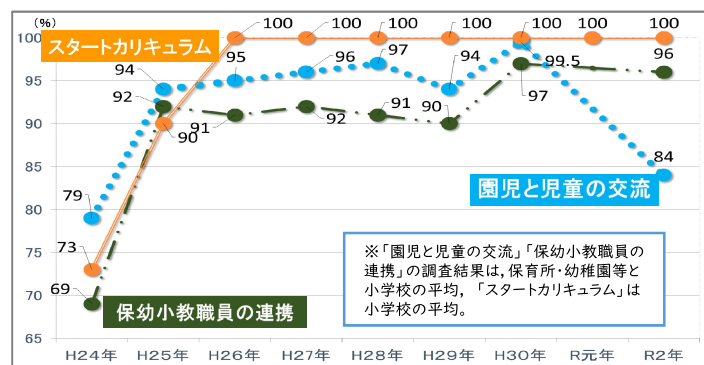
・目的:保・幼・小の連携を図り、幼児期の教育と小学校教育の滑らかに確実な接続を図る。
・内容:講演,実践発表(高知市保・幼・小連携推進地区の発表),グループ協議(実践交流・次年度計画)等



R2 保・幼・小連携研修会(オンデマンド開催)ダイジェスト版



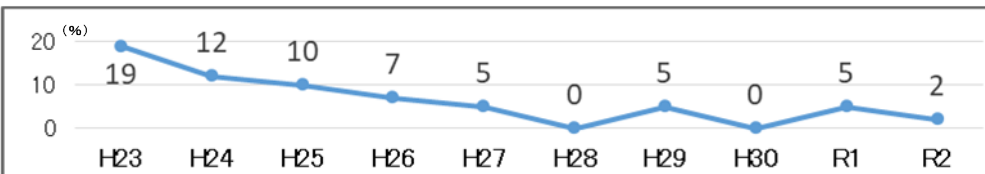
4 保・幼・小連携の取組に関する調査結果(実施率の推移)



『高知市保・幼・小連携実態調査』より、小学校・義務教育学校の「スタートカリキュラム」、保・幼・小における「園児と児童の交流」及び「保幼小教職員の連携」の実施率の推移を示したものの。

※ 令和元年度のデータについて
令和元年度は、保育所・幼稚園等の県調査の回数を縮減したため、「園児と児童の交流」及び「保幼小教職員の連携」の実施率の把握なし

5 小1プロブレム発生率の推移(高知市立小学校41校中、発生した学校の割合)



※ 小1プロブレムについて
高知市教育委員会では、小1プロブレムを「第1学年の学級において、入学後の落ち着かない状態がいつまでも解決されず、担任等の話を聞かない、担任等が伝えたように行動できない、勝手に授業中に教室の中を立ち歩いたり教室から出ていったりするなど、授業規律が守られず、そのために授業が成立しない状態が拡大し、こうした状態が数ヶ月にわたって継続する状況のこと」ととらえている。